

認知症リハビリプロジェクトの作品が ふれあいつながる作品展で受賞

福祉村病院で実施している認知症リハビリプロジェクトの木工と革細工で制作した作品から3作品を第7回「ふれあいつながる作品展」に応募しました。その結果、2作品が特別賞を受賞しました。

「ふれあいつながる作品展」は認知症の患者様が作った作品を医療施設での展示にとどまらず、世の中に出すことで、医療従事者の方々の充実感や、なにより認知症の患者様に喜んでいただけることを目的としたWeb作品展です。

福祉村病院は第4回目から参加しており、今回は第4回作品展以降2度目の受賞となり、特別審査員からコメントを頂きました。(廣瀬)

特別賞 やったで賞 作品名：道具入れ



特別審査員:医師・敦賀温泉病院 理事長 院長 玉井 顯

認知症、特にアルツハイマー病の方は初期から道具の使用ができなくなり、目測や目算が不良になり、視空間障害が目立ってきます。特に木工での作品はこれらの要素が必要となり大変難しいと思いますが、よく仕上げたと思います。大抵は怪我をさせないようにと、危険な工具は使用させないようにするものです。おそらく、電動ノコギリを以前に使っていた方だと思いますが認知症の方に電動ノコギリを使用していただいたスタッフのチャレンジには敬服します。危険な行為であればあるほど、余計に集中力が上がり脳の活性にはもってこいのリハビリになっています。「ジージー」という電動ノコギリや金槌の「コンコン」という音も、周りで聞いている人のリハビリにもなりますね。よく見ると、釘の配置が不揃いで、木が合わさるところにも隙間もあり、まさしく手作り感が満載です。作られた認知症の方も、スタッフの方も頑張りましたね。お見事です。

特別賞 かがやき作品賞 作品名：みんなの動物園



特別審査員:京都精華大学名誉教授(前デザイン学部長)
NPO障害者芸術推進研究機構 理事長 松谷 昌順

これは革細工の作品。革を切り抜く、着色する、形づくる、などの加工の後、集合させるなど相当な時間と根気が必要です。さらには患者さんの得意技の結集制作でできているのです。夢のある「みんなの動物園」というテーマ設定もよく考えられていますね。

様々なプログラムによる認知症介護の緩やかで確かな治療を実践されていることに敬意を表します。

ご興味のある方は、是非

ふれあいつながる作品展

検索

でご検索ください。